

令和7年度 府中市立府中第八中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	あるテーマに沿って自分で考え、その内容を文章や他の表現方法（詩や俳句、短歌など）で表現すること。	- 単元の学習内容に応じて、単元最後に学習課題として自分で考えたことなどを文章化したり、作品を作成したりする。 【決定・表現】 - 上記で作成した文章・作品の紹介をスピーチ形式で行う。 【表現】		
数学	- 正負の数における計算ができるようになってきているが、説明することに関して抵抗感をもった生徒が多い。 - 自分の考えを自分の言葉でプリントに書いたり、考えたことを自分の言葉で説明したりする力を伸ばすこと。	- 自分で考える時間も設けた後、自分の意見を共有する機会を増やす。 【対話】 - ICT を用いた課題を通した単元の振り返りにおいて、自分の言葉で文章を考える機会を設ける。 【表現】		
理科	- 基礎的、基本的な内容の丸暗記にとどまり、その内容を本質的に理解しきれていない生徒がいる。時間をかけて丁寧に理科的思考を身に付けている。 - 日常生活と関連づけて理科を学ぶ姿勢が必要である。	- 一つの事象に対して、身近な例を挙げ、体験が不足している場合は視聴覚教材を積極的に活用し知識の活用を生かせるようにする。 【発見】 - 実験後の話し合い活動を通して、必要に応じて知識を活用させる課題などで意見交換の場をつくっていく。 【対話】		
社会	- 情報を収集し、社会的事象の意義や特色、相互の関連性まで結び付けられるような理解力の構築を図る必要がある。 - 家庭学習などを主体的に取り組む姿勢を育む。	- 地理的分野では情報を収集して読み取る活動や、これを基にして考察や、判断した結果を表現する活動を行う。 【発見・表現】 - 歴史的分野では社会的事象を時期、推移などに着目し、ICT の活用により視覚的に歴史的事象の推移が確認できるようにする。 【発見】		
音楽	- 正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。 - 考えをまとめ、言葉にすることや記述する力を更に身に付ける必要がある。	- 発声の仕組みを理解させ、正しい発声法を身に付けることに意欲をもたせる。 【発見】 - 表現の工夫において話し合い活動をさせ、言語化に対する力を身に付けさせる。 【決定】【対話】【表現】 - 合唱コンクールに向けてクラスで協力して創り上げる喜びを感じ、達成感を味わえるようにする。 【対話】		
美術	- 身近な物をモチーフとして形を写したり色を再現する場合、観察して特徴をつかむ力を更に高めたい。 「フリーハンドで水平線を引く」「線分の中点の見当をつける」など、感覚的な能力を養う必要がある。 - 水で薄めた絵の具の色を重層的に着彩して、いろいろな中間色を表現する経験が少ない。	- 身近なものを観察して形や色を写し取る描画の機会を増やし、視覚から情報を掴み取る能力を高める。 【発見・表現】 - クロッキーなど短時間の描画練習を繰り返す中で形態を把握する感覚を養い、直感的な表現能力を高める。 【決定・表現】 「透明描法」について理解させ、実際に着彩する中で効果を確認しながら経験を重ねて習得させていく。 【発見・表現】		
技術	他教科や他の題材、または、社会とのつながりを意識して思考することで、学びを更に深めていきたい。	既習事項を活用した問題解決学習を取り入れ、社会の問題を見出し、課題設定する力をはぐくむ。 【発見・決定】		
家庭	- 既習事項として得た知識を自らの生活に関連付けて考えることが苦手な生徒が多い。 - 食生活においては、食べることに興味関心はあるものの、家庭での調理経験がない生徒が多い。	- 教師からの提示を基に、自分で考える場面だけでなく、グループ学習の機会を増やし、学び合うきっかけをつくる。 【発見・対話】 - スモールステップを重ね、基礎・基本の技術を確実に定着させる。 【決定・表現】		
保健体育	- 指示された内容には取り組めるが、ペア学習や個人の課題克服の学習では指示されないと消極的になる。 - 学習カードなどの記入には、具体的に記入することが苦手な生徒が多い。	- 副教材などを拡大し、活動場所に掲示しながら、運動のポイントを場面を止めて解説を行う。 【発見・対話】 - 学習カードに文型を提示し、相手に伝わる書き方を学習させる。 【表現】		
外国語	- 学習に対する意欲は全体的に高いが、基礎的な単語や基本的な文法などの習得につながっていない。 - 積極的に英語で対話を使用する意欲が高いので、これから学習する知識・技能を繰り返し行い、習得していくことで思考力・判断力・表現力をさらに伸ばすことが可能となる。	- 基本的な単語・文法の定着が図れる活動を行い、知識・技能を習得できるようコミュニケーションを通して指導をする。 【対話・表現】 - 身につけた知識・技能を用いて、英語で表現する様々な場面を設定し、ペアやグループでの機会を多く設ける。 【対話・決定・表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第八中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	- 初めて読む文章に対して核となる内容を捉えたり、それに対する自分の考えをまとめたりすること。 - 文章の内容を身近に捉え、自分の考えの幅を広げること。	「読むこと」を扱う単元において、読み深めて生徒自身に中心となる内容を要約させたり、表現の効果を考えたりする活動を積極的に設ける。【発見・対話】 - 文章の内容や他生徒の意見と、自身の考えとを比較しながら考えさせることで生徒自身の考えの幅を広げさせる。【対話】		
数学	数学で学習した考え方や言葉を使って、自分の考えを説明することができる生徒が少ない。	数学で学習する言葉や計算、公式などの基礎・基本を確実に定着させ、生徒同士で考えを伝え合ったり、発表したりする場面を積極的に設ける。【対話】		
理科	- 基礎的、基本的な内容の丸暗記にとどまり、その事象を科学的に理解している生徒はそれほど多くない。 - 課題解決のために既習事項を活用し、その考えを表現することに課題が見られる。	- 一つの事象に対して、多角的に捉えられるような発問をしたり、生活に関連した内容を紹介したりする。【発見】 - 観察・実験の考察、知識を活用させる課題などを通して、お互いに教え合い、考えをより深められるような場面を増やす。【対話】		
社会	- 情報を収集し、社会的事象の意義や特色、相互の関連性まで結び付けられるような理解力の構築を図る必要がある。 - 家庭学習などを主体的に取り組む姿勢を育む。	- 地理的分野では情報を収集して読み取る活動や、これを基にして考察や、判断した結果を表現する活動を行う。【発見・表現】 - 歴史的分野では社会的事象を時期、推移などに着目し、ICT の活用により視覚的に歴史的事象の推移が確認できるようにする。【発見】		
音楽	- 鑑賞の解釈や批評の力が弱く言語化することが苦手な生徒が各クラスにいる。 - 他の声部を意識しながら表現することに改善の必要がある。 - すすんで楽譜の読み込みを行うなど、音楽表現を創意工夫する力を高められるようにしたい。	- どう表現したいかを明確にしてその方法を実践できる力をはぐくむ。【発見】【決定】 - パートでの話し合いや発表を通して楽譜への書き込みを定着させる。【対話】【表現】 - 合唱コンクールに向けてクラスで協力して一つのことを創り上げる喜びを感じ、達成感を味わえるようにする。【発見】【表現】		
美術	- 調べて得た知識を作品に反映させるのに難航している。 - 制作進度に差がある。	- デザインがもつ情報伝達能力を把握し、身近なデザインからもそれらを読み取る力を付ける。【発見】 - 班でそれぞれの問題点を解決できるように理解力の向上を図るために作品の制作手順を具体的に掲示する。【対話】		
技術	他教科や他の題材、または、社会とのつながりを意識して思考することができない。	既習事項を活用した問題解決学習を取り入れ、社会の問題を見出し、課題設定する力をはぐくむ。【発見・決定】		
家庭	- 既習事項として得た知識を自らの生活に関連付けて考えることが苦手な生徒が多い。 - 食生活においては、食べることに関する興味関心はあるものの、家庭での調理経験がない生徒が多い。	- 教師からの提示を基に、自分で考える場面だけでなく、グループ学習の機会を増やし、学び合うきっかけをつくる。【発見・対話】 - スモールステップを重ね、基礎・基本の技術を確実に定着させる。【決定・表現】		
保健体育	- 提示された課題に対しては一生懸命に取り組むことができるが、自らの課題に自ら気付いたり考えたりすること。 - 自らの課題や変容を、言葉で伝えたり、学習カードやレポートに的確に言語化したりして表現すること。	- 具体的に課題を明示し、ペアやグループで各自の課題を認識させる場面設定を増やす。【発見・対話】 - 自らの課題に対し、主体的に解決に向かわせる時間を、各単元の中で確保する。【決定】 - 学習カード等を活用しながら、ペアやグループで課題解決方法等について言語化を図らせる。【対話・表現】		
外国語	- 基礎基本的な文法の定着ができていない - 日常的な話題について、簡単なやりとりをする意欲はあっても自信をもって答えることができない生徒が多い。	- 基本的な文法の定着がコミュニケーションに結びつく指導をする【対話・表現】 - 様々なコミュニケーション場面を設定し、自分自身の日常を表現する場面をつくる【対話・表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第八中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・文章を正しく読み取り、それに対する自分の考えを明確に記し、表現すること。	・文章を正しく読むために短い文章に触れる機会を多く作る。 【発見】 ・自らの考えをまとめ、推敲をしたうえで発表を行う環境を作る。 【表現】		
数学	「学びに向かう力等に関する意識調査」より、以下の経験が不足していることがあげられる。 ・学習の進め方について、教科書を読んで学習内容を把握する経験 ・授業において、自分が理解したことを他の人や先生に説明する経験	・授業において教科書を読んだり、確認する時間を設け、自己対話を促す。 【対話】 ・問題の答えのみの確認ではなく、途中式の説明や間違っている点の説明など、「説明」の時間を設けられるようにする。 【対話】		
理科	・全国学力状況調査より、「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持った問題を見出したりしている」とする生徒の割合が低い。 ・学習した内容を活用し、科学的根拠に基づいて論述したり意見を発表したりすることに課題が見られる。	・日常生活を振り返り、学習課題を設定させる。そのために単元の導入を充実させ生徒の疑問を見つける取組を行う。 【発見】 ・実験計画の立案や実験後の話し合い活動を通して、科学的に思考し論述する場を設定する。知識を活用する課題などで意見交換を促す。 【対話】		
社会	・授業で学んだ重要語句などの知識や、資料活用の技能を生かして、思考力を深めることができていない。 ・知識を覚えただけで、単元の全体像を俯瞰することができない。 ・入試等の長文形式の出題の意図に的確に捉えることができない。	・思考力を高めるために、「なぜ」の発問を増やし、学んだことを活用して取り組むワークシートにする。 【発見】 ・単元ごとに、何のために何を学ぶのか、全体像を捉えさせる導入を実践する。 【発見】 ・基礎的、基本的な知識定着を図る小テストを実施する。 【決定】		
音楽	・アナリーゼの力が弱い。 ・表現の工夫や鑑賞の批評を深める力が弱い。 ・正しい発声法で声量を上げていくことが課題である。	・アナリーゼの力を付けさせるように楽譜の書き込みなど、授業のパート練習時にアドバイスをしていく。 【発見】【決定】 ・考えを言語化して発表させ、周りの発表を聴くことで表現を深められるようにする。 【対話】【表現】 ・安定した発声で声量の幅を出せるような発声練習に取り組ませる。 【表現】		
美術	・主となるモチーフを強調させるようなレイアウトを組むことが出来るかどうかに差がある。 ・丁寧に作業を行うための集中力が長く続かない。 ・道具や素材の特性を理解する所まではできているが、制作に取り掛かると時間がかかる。	・作品の中で主役になる部分をデザイン構成の段階で理解するようデザイン共有の時間を設ける。 【発見・決定】 ・机が4人班で向かい合う構造になっていることから話してしまいやすい構図になってしまっているため、声掛けを怠らないようにする。 【対話】 ・本制作に入る前に素材や道具を試しに使用する時間を設けて慣れさせることが理想。 【発見】		
技術	・他教科や他の題材、または、社会とのつながりを意識し、問題発見的な視点を持ち、解決可能な課題を設定しようと思えることができない。	・既習事項を活用した問題解決学習を取り入れ、社会の問題を見出し、課題設定する力をはぐくむ。 【発見・決定】		
家庭	・既習事項として得た知識を自らの生活に関連付けて考えることが苦手な生徒が多い。 ・保育分野においては、幼児に関する興味関心はあるものの、身近に幼児がいないためイメージしにくい生徒が多い。	・教師からの提示を基に、自分で考える場面だけでなく、グループ学習の機会を増やし、学び合うきっかけをつくる。 【発見・対話】 ・動画を多く用いてイメージをもたせ、幼児の特徴を理解しかわり方を考えさせる 【決定・表現】		
保健体育	・与えられた課題に対しては積極的に取り組むことができるが、自らの取り組みを主体的に考え判断し、課題を見つけ出し、それを解決しようとする意識を高めない。	・自らの課題に気付き、課題を明確にし、課題解決に向けて主体的に取り組む力を育てる。 【発見】 ・単元のねらいや種目の特性を明確に伝え、見つけた課題を仲間と共有する時間をつくる。 【対話・決定】 ・学習カードやワークシート等で振り返りする機会を作り、感じたことや考えたことを言語化し、課題に継続して取り組み、表現する力を育てる。 【表現】		
外国語	・会話テストにおいてネイティブスピーカーの前で緊張してしまう生徒が一部見られた。 ・英作文など自己表現活動に関しては、どの生徒も意欲的に行うが、準備していない質問などを瞬間的に答えることを苦手とする生徒が見られた。	・授業の中でネイティブスピーカーと話す機会を設けていく。 【対話・表現】 ・ペアやグループでのやり取りをし、相手の話を聞いたうえで質問を考え、それに応答する活動を授業で行っていくようにする。 【対話・表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。